

キャラクター名
立花 裕実 (たちはな ひろみ)

– プレイヤー名 _____

| | | | | | | |
|--------|-----------|----|------|-------|------|-----|
| シンドローム | エンジェルハイロウ | | ワークス | 医者 | カヴァー | 大学生 |
| | ハヌマーン | | | | | |
| オプショナル | | | 年齢 | 24 | 性別 | 男 |
| 覚醒 | 死 | 衝動 | 恐怖 | 初期侵食率 | | 35 |
| 出自 | | 経験 | | 邂逅 | | |

| | 基本値 | ワークス | ボーナス | 成長 | 他修正 | 能力値 | HP | 24 |
|----|-----|------|------|----|-----|-----|--------|----|
| 肉体 | 1 | 0 | 0 | | | 1 | 行動値 | 10 |
| 感覚 | 4 | 0 | 0 | | | 4 | (非装備時) | 10 |
| 精神 | 2 | 0 | 0 | | | 2 | 戦闘移動 | 15 |
| 社会 | 1 | 1 | 0 | | | 2 | 全力移動 | 30 |

| 肉体 | | | 感覺 | | | 精神 | | | 社会 | | |
|-----|----|----|-----|----|----|---------|----|----|-----------|----|----|
| 技能 | SL | 修正 | 技能 | SL | 修正 | 技能 | SL | 修正 | 技能 | SL | 修正 |
| 白兵 | | | 射撃 | | | R C | 1 | | 交渉 | | |
| 回避 | | | 知覚 | | | 意志 | 1 | | 調達 | | |
| 運転： | | | 芸術： | | | 知識：【医学】 | 4 | | 情報：学問【医学】 | 1 | |
| 運転： | | | 芸術： | | | 知識： | | | 情報： | | |
| 運転： | | | 芸術： | | | 知識： | | | 情報： | | |
| 運転： | | | 芸術： | | | 知識： | | | 情報： | | |
| 運転： | | | 芸術： | | | 知識： | | | 情報： | | |

| 武器・コンボ | 能力 | 命中値 | G値 | 攻撃力 | 射程 | メモ |
|--------------|-----|-------|----|-----|----|--|
| 100↓ | R C | 9r+1 | | 21 | | 装甲無視、攻撃の対象が単体であってはならない 光の指先・光の手・サイレンの魔女・滅び |
| 100↑（ボーナス込み） | R C | 11r+1 | | 52 | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |

| 防具 | 価格 | 装甲 | 回避 | 行動 | メモ |
|----|----|----|----|----|----|
| | | | | | |
| | | | | | |

所持品

最大財産P: 4 残り財産P:

「やあ、僕は立花 裕実。医学部所属の大学生だよ。うちは代々医者の家系だからね……。僕も御多分に洩れず、ゆくゆくは医者にさせられるというわけさ。シンドロームはエンジニアハイロウとハスマーンのクロスブリード。RCが得意だよ。僕に光なんて似合わないけど…。まあ、そうだね。死がないためにも死なせないために、いいトコに住むってやつさ。」

「あ、……いいや、減らしてくれないかな世界。もう僕が減らさうかな世界!」

「世界から隔絶して、死んだように生きれたらいいのに！」

「世界から隔離して、死んだように生きたらしいのに」「僕が”半傳い”なんて、皮肉に半ほどがあるよな！」

「俺が、先ほどの、なんど、腹内に仕込はこがるるよな」

「これ以上僕の本切なヒトを殺さないでくれよ……っ！」在あり！ 類のからう……っ！」

「ひとりぼっちは、暗闇は、怖いんだ…」

「俺は”誰でもない誰か《ジョン・ドウ》”でしかないと」

- ・ 医者の家系の長男。将来は医者になることを決められている
 - ・ 本当は民俗学や地質学のほうが好き。医学部に進学した後も休日にフィールドワークという名の小旅行をしている
 - ・ 剣道をしていた。というかさせられていた

 - ・ 優等生的な顔をして中身は鬱々。世界を呪っている
 - ・ 踊髪みたいな感じ（双極性障害ではない）
 - ・ 公的な場面では一人称が「僕」で優等生だが、素の一人称は「俺」。気を抜いたらすぐに足が出る
 - ・ 自分を偽らないと社会に適合できない
 - ・ 世界が欲しているのは「僕」ではなく「俺」は必要ないと言っている